

# ガス・石油機器の製品事故分析と対応

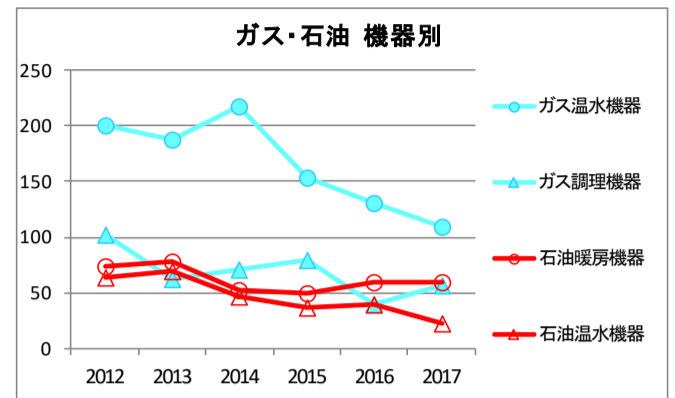
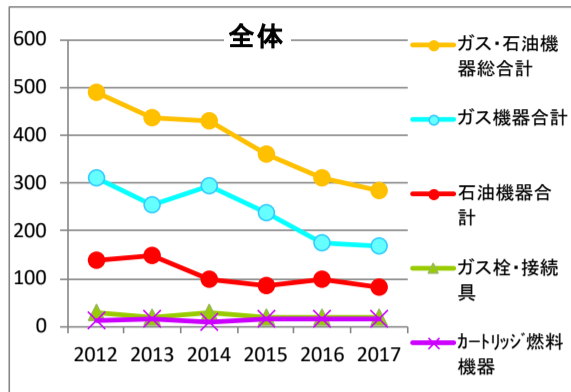
(一社)日本ガス石油機器工業会の安全対策委員会では、ガス・石油機器の事故情報を調査し、その分析結果と今後の安全対策について検討しています。この度、平成29年(2017年)に発生した事故についての取りまとめをご報告いたします。

製品事故件数：会員企業から「重大製品事故として報告された事故件数」及び「重大製品事故以外の事故として報告された事故件数」の合計

## 1. 製品事故件数推移 (工業会受付 1月~12月集計 事故発生時点)

(年)	2012	2013	2014	2015	2016	2017
ガス調理機器	102	62	71	79	40	56
ガス温水機器	201	188	217	153	131	109
ガス暖房機器他	8	4	6	5	3	2
<b>ガス機器合計</b>	<b>311</b>	<b>254</b>	<b>294</b>	<b>237</b>	<b>174</b>	<b>167</b>
ガス栓・接続具	28	18	28	20	20	20
カートリッジ燃料機器 ※	14	15	10	17	16	15
石油暖房機器	73	78	52	50	60	60
石油温水機器	64	70	47	36	39	23
<b>石油機器合計</b>	<b>137</b>	<b>148</b>	<b>99</b>	<b>86</b>	<b>99</b>	<b>83</b>
<b>ガス・石油機器総合計</b>	<b>490</b>	<b>435</b>	<b>431</b>	<b>360</b>	<b>309</b>	<b>285</b>

※カセットこんろ・ボンベの重複報告は1件とカウント



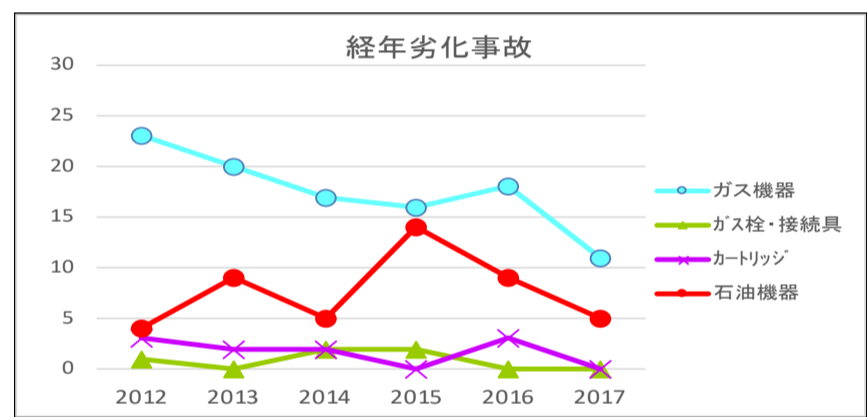
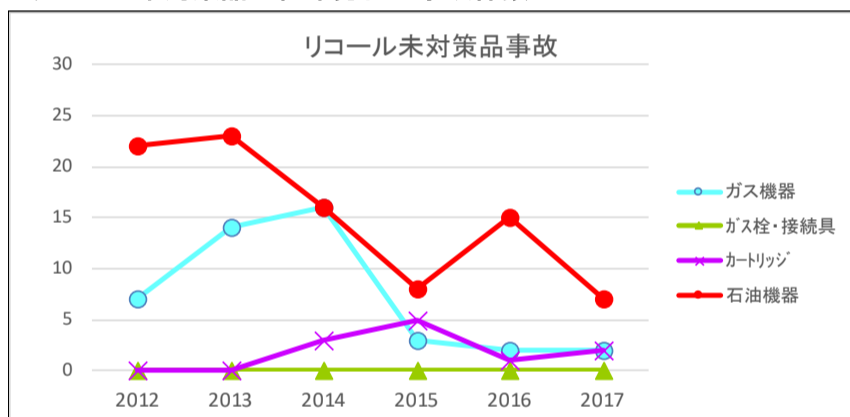
### (1) 2012年~2017年の事故件数の推移

- ①ガス機器… 減少傾向にあり、2017年は2012年に対し約半減。温水機器においては長期的には減少傾向。2014年は関東で大雪があり、排気閉塞によって異常着火した事故が増加しました。
- ②ガス栓・接続具… 20件前後で、ほぼ横ばいに推移しました。
- ③カートリッジ燃料機器… 15件前後で、ほぼ横ばいに推移しました。
- ④石油機器… 減少傾向にあり2017年は2012年に対し約4割減少。特に温水機器が2012年の約1/3に減少しました。

### (2) 2017年の特徴

- ①調理機器の事故は、煮こぼれによる異常燃焼、グリルのお手入れ不足による発火、ガス用ゴム管引き回し等の設置不良、ペットによってこんろが点火し周囲の可燃物に着火などでした。
- ②石油暖房機器においてガソリン誤給油による事故が継続して発生しました。

## 2. リコール未対策品・経年劣化の事故件数



### (1) リコール未対策品の事故

- ①リコール未対策品の事故件数は減少傾向ですが、経年により発生リスクが増えるため点検・取替の推進を継続します。
- ②各社の改修・回収(捕捉)活動も飽和した場合もあり、行政と連携して消費者への周知方法等の対応を検討します。

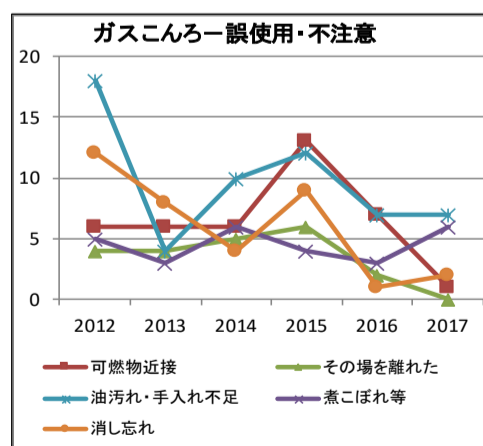
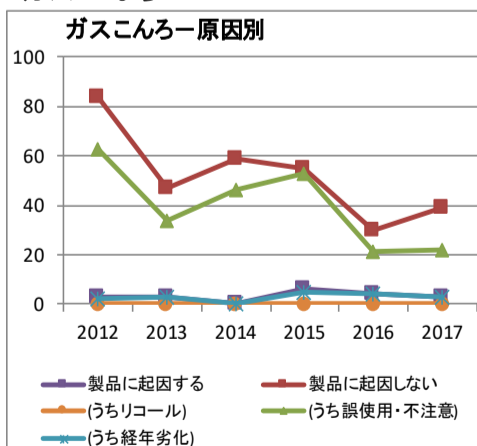
### (2) 経年劣化による事故

- ①2012年から2016年まで合計約30件でしたが、2017年は16件へ減少しました。
- ②経年劣化事故に対して、長期使用製品安全点検制度、あんしん点検、点検・取替の推進を継続します。

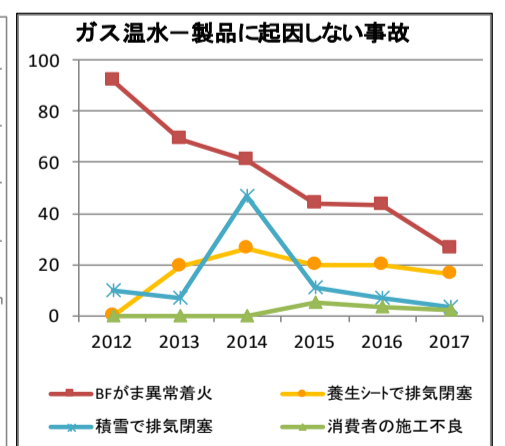
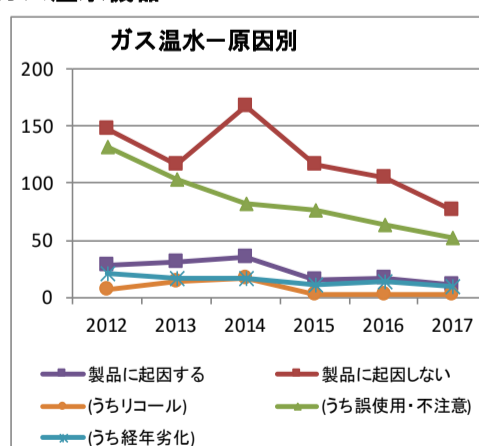
## 3. 主要製品の事故件数推移、及び対応

### 3.1 ガス機器等

#### ガスこんろ



#### ガス温水機器



### (1) ガスこんろ

- ①製品に起因しない事故が39件発生
  - ・ペットがこんろを点火したと推定される事故が5件発生。工業会ホームページに「[不使用时、不在時は操作ボタンをロックする\(ペットに対する注意\)](#)」の注意喚起を実施しました。
  - ・無資格者が設置した中古のビルトインコンロでガス漏えい事故が発生。[中古品による事故](#)について注意喚起しました。
  - ・その他、国民生活センターからつかまり立ちの幼児がグリルのガラス扉に触れやけどを負う事故情報があり、その注意喚起を行いました。取説・ホームページによる注意喚起も実施、グリル扉ガード等の検討にも取り組んでいます。
- ②グリルの油汚れ・お手入れ不足による発火事故が7件、こんろの煮こぼれの放置による事故が6件発生。お手入れに関する注意喚起とグリル火災防止装置が搭載されたSiセンサーコンロへの取替を推進します。

**(2) ガス温水機器**

- ①経年劣化事故は減少傾向ですが9件発生。[経年劣化事故を防ぐために点検・取替えの啓発](#)をしました。
- ②バランス式ふろがまの事故があるため異常着火などの防止に対応した新しい機器への取替えを啓発します。
- ③建物の塗装工事中に養生シートにて機器を閉塞したことにより異常着火した事故について、行政機関へ事故分析の結果を報告し、塗装業者団体等への周知活動を計画します。
- ④屋外設置機器の排気口が[隣家の屋根から落ちた雪で閉塞し異常着火した事故](#)、及び[小型湯沸器を無資格の所有者が設置しガスが漏えいした事故](#)が継続して発生しており、ホームページの注意喚起を見直しました。

**(3) ガス栓・接続具**

- ①ガス接続不完全による事故が9件、うちゴム管用ソケットが5件あり、完全接続が目視できる継手及びSL兼用型(自在型)ガスコードの普及を更に推進します。
- ②ガス接続不完全による事故はガス栓用プラグでも2件あり、長期使用により組込まれたゴム部品の硬化が懸念されるため、工業会ホームページの「ガス栓・ガス接続具の安全な使い方」を見直し、[定期的な点検・取替え](#)を啓発しました。

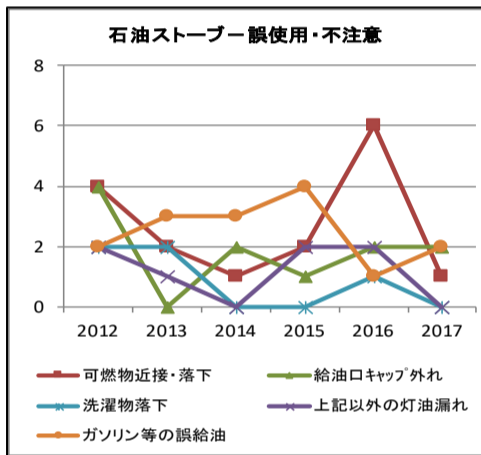


**(4) カートリッジ燃料機器 (カセットこんろ・カセットボンベ等)**

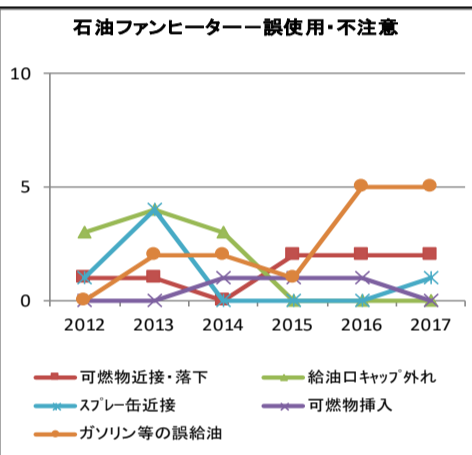
- ①**ボンベの誤接続による事故**が6件、他の調理機器の上に置いたことによる事故が1件発生しました。
- ②ガストーチによる事故が多発しており、特に業務用として過酷な環境下で、また過度に使用され事故に至るケースが多いため、飲食店等に向けた啓発を検討します。
- ③カセットこんろの使用頻度があがる秋冬に備え、火災予防週間で啓発を実施する全国の消防署へ[啓発チラシ](#)を送付しました。また、経年劣化を周知するため冬にWEBを使った啓発キャンペーンを行いました。

**3. 2 石油機器**

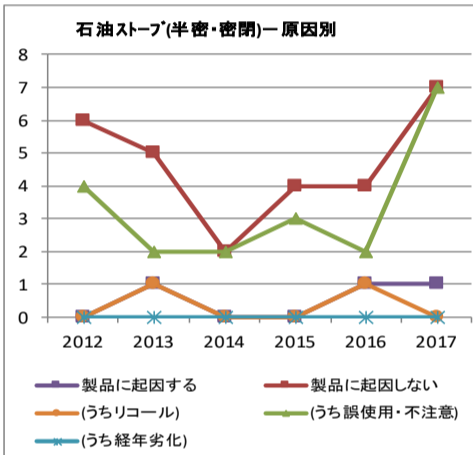
**石油ストーブ(開放式)・石油こんろ**



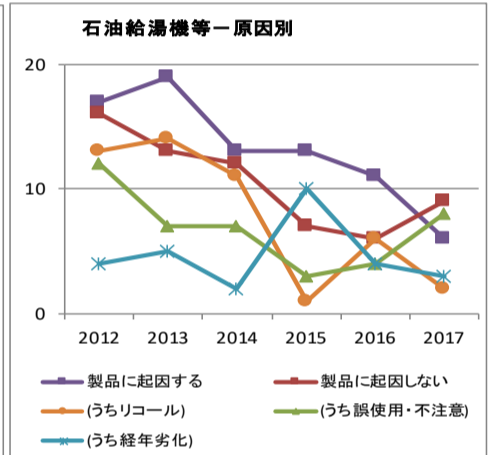
**石油ファンヒーター**



**石油ストーブ(半密閉式、密閉式)**



**石油給湯機等**



**(1) 石油ストーブ(開放式)・石油こんろ**

- ①2016年に増加した可燃物が近接したり落下したりした事故は1件に減少しましたが、事故が毎年起きているので引き続き[安全啓発チラシ](#)でも暖房機の重要ポイントとして挙げ、他の媒体も含め啓発を継続します。
- ②毎年発生している[ガソリンや混合油の誤給油による事故](#)は2件発生。本件は石油ファンヒーターと合わせ農業系・家庭菜園系の新聞・雑誌等での啓発も行います。
- ③給油口キャップの外れによる事故があるため、引き続き啓発を行い給油口の安全性を強化した製品への買替を推進します。  
([PSCマーク表示品に関する説明はこちら](#))

**(2) 石油ファンヒーター**

- ①可燃物の近接や落下による事故は2件発生。本件については安全啓発チラシでも暖房機の重要ポイントとして挙げ、他の媒体も含め啓発を行い引き続き注意喚起します。
- ②ガソリンや混合油の誤給油による事故は前年と同じ5件発生。  
原因として「草刈機などの小型農業用機械に使う混合油を間違っ給油した」の他、「ガソリンと灯油の区別がつかない」「石油ストーブはガソリンでも使えると思っていた」等の理由が疑われるため、引き続き調査を継続します。
- ③PSCマーク表示製品の給油口キャップの外れによる事故は2015年から引き続き0件で安全性の効果が確認されました。

**(3) 石油ストーブ(半密閉式、密閉式)**

- ①半密閉式石油ストーブでは、誤使用・不注意による事故のうち可燃物の近接や落下、故障状態を認識したまま使用、点検や維持管理の不足による事故が各々1件でした。
- ②密閉式ストーブでは、誤使用・不注意による事故のうち可燃物の近接や落下が2件、点検や維持管理の不足が1件、消費者の設置や施工の不良が1件でした。
- ③点検・維持管理不足等による事故を防止するため、[点検・取替えの推進](#)を引き続き啓発していきます。

**(4) 石油小形給湯機・石油給湯機付きふろがま・油だき温水ボイラ**

- ①経年劣化による事故が3件、点検や維持管理の不足による事故が4件、故障状態を認識したまま使用したことによる事故が3件あり、事故原因の半数以上を占めます。
- ②引き続き[点検・取替えの啓発活動](#)を進め、石油小形給湯機・石油給湯機付きふろがまでは経年劣化お知らせ機能、油だき温水ボイラではタイムスタンプ機能の搭載を推進します。

**(5) 石油ふろがま(薪兼用ふろがま、ふろバーナを含む)**

- ①2017年は石油ふろがまの事故4件のうち経年劣化による事故は0件でした。
- ②例年は経年劣化による事故が発生しており、空だき防止装置のない古い器具の使用や長期間(30年以上)使用されている実態があるため、取替え推進などの啓発活動を行います。